

ピア・メディエーションは日本の教育を大きく変える

本書は、2008年8月に寝屋川市教育委員会指導主事の竹内和雄先生と池島が意気投合して、奈良教育大学「ピア・メディエーション研究会」を立ち上げ、同市の若い先生方と学級経営や生徒指導上の問題について協議してきた結果生まれたものです。研究会に参加している先生方は、日に日に実践的指導力を身につけてこられ、正直驚いています。

どうしてそのような力が身につけてきたのかふりかえてみると、先生方自身も語っているのですが、本書で取り上げたピア・メディエーションスキルの学習が、大きな影響を与えたのではないかと思います。

学校は、もめごと問題の宝庫であると言ってもいいくらい多忙な毎日です。子どもたちにとっては、友人とのもめごとは一大事の出来事です。そのときに問題を真正面から受け止めてやり、メディエーションの理論的知見を踏まえて民主的な話し合いによって首尾よく解決できたとき、大きな成功体験となることは間違いありません。自己肯定感が高まることはもちろん、子どもの信頼度も増すことは確実でしょう。

私は、これまで学校で生じるいじめなどの教育臨床的問題に対して、多くの先生方とかかわってきました。特に、ここ10年ほどは、ピア・サポートの考え方を取り入れ、問題行動の予防、人間関係の開発的視点からの対応策を検討してきました。本書で紹介した指導プログラムの多くは、これまでの臨床研究で蓄積してきたものです。特に、ピア・メディエーションスキルは、いじめ予防の視点から見て、これまでのいじめ対応策のなかでも極めて優れた学校指導モデルであると確信しています。

本書に収められた指導用ビデオの作成は、学級で使える教材が欲しいという話から始まり、ピア・メディエーション研究会のメンバー自らが出演者となって作成したものです。確かな理論的知見と体験学習の両面によって、学びが確かなものになっていったのではないかと思います。DVDに収められた指導用ビデオ・手書きの指導用シートなどは、先生方の労作です。現場の実態に即した本物の教材が示されていると言えるものです。

ぜひ本書を活用され、生き生きとしたクラスづくりに役立てられることを願っております。

池島 徳大

「昔はよかった」「昔の子は遊びのなかで社会性を身につけた」と、いい時代をふりかえていても埒があかない——このような問題意識を持ってスタートしました。本書では、ピア・メディエーションという、欧米でかなり広く行われている手法を、日本の学校に合う形にアレンジしています。ピア・メディエーションを学問的に机上で

学ぶための本ではありません。取り組みを通して、子どもたちが社会性や望ましい人間関係を築く力が身につけられるようになるための本です。さらに、よりよいクラスづくりができることが目標の本です。

本書を手にとると、ピア・メディエーションをクラスにすぐ導入するための工夫が施されていることにお気づきになると思います。特別の準備がなくても、すぐに授業ができるよう、改良に改良を加えました。実際に担任1年目の先生方のクラスで活用し、成果を上げた指導プログラムです。活用したクラスの子どもたちは、予想以上にこの手法を身につけました。相手の話を上手に聞き、相手の気持ちを考える習慣ができたクラスは、自然と居心地のよいクラスになっていきました。また、驚いたことに、子どもたちが自分たちでトラブルを解決できるようになっただけでなく、トラブル自体が激減したのです。トラブル当事者が、自分の怒りをコントロールできるようになったからだと考えています。

付録DVDの指導用ビデオは、そのまま見せるだけでも効果が上がるように工夫しています。時間がない場合は、ビデオの一部を見せるという活用方法もあります。ある中学校では、朝礼で「指導用ビデオ1 怒りの感情を知ろう」を流し、生徒指導担当が全校生徒に説明しました。

もちろん、指導用シートを活用し、指導案を参考にしながら授業で取り組むとさらにいいです。全10時間の指導例を掲載しています。さらに実際のトラブル場面のロールプレイなど、体験を通して学ぶ時間を増やすと、より効果的です。指導用シートは、ワードファイル・一太郎ファイル・手書きPDFファイルの3種類でDVDに入れてあります。学校やクラスの状態に応じて変更し、ご利用ください。

本書で説明していることは、当たり前のことばかりです。ピア・メディエーションと言われると、取っつきにくいかもしれませんが、オーソドックスな基本的な事柄ばかりです。ただ、ピア・メディエーションという発想を使うことで、系統立て、順序よく、わかりやすく伝えられます。

ピア・メディエーションは日本の教育を大きく変えるインパクトを持っています。日本中のクラスで実践され、子どもたちが自分たちでトラブルを解決する力を獲得し、さらに磨かれていくことを期待してやみません。

竹内 和雄

本書作成にあたり、研究会の先生方をはじめ、撮影・映像の編集等がかかわっていただいた皆さんに厚く御礼を申し上げます。また、当時、富山県から内地研究に来られていた堀井先生には、短期間でしたが撮影等で大変お世話になりました。ありがとうございました。

最後に、本書出版にあたり熱意をもって進めていただいた、ほんの森出版の小林敏史さんに心から感謝申し上げます。

平成23年5月 監修・著者しるす